

# 導入からサポートまでワンストップ対応 M&Aで規模拡大へ

## セグエグループ 愛須康之社長に聞く

上場1年銘柄に注目

サイバーセキュリティ関連銘柄として人気を集めるセグエグループ(3968・JQ)。昨年12月21日に新規上場から1年を迎えた。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について、愛須康之代表取締役社長にインタビューした。

「上場1年を振り返って018年度に成果が大きくなるのではと考えている。採用面でも、業界の中で活躍している中核クラスの人材が集まるようになってきた」

「セグエグループは事業会社のジェイズ・コミュニケーションズを中核に、当初から上場を見据えて純粋持株会社として設立した。社名の『セグエ』に『仲間』『同盟』『Next』といった意味が込められている通り、法人向けシステムインテグレーションやITソリューションを展開している仲間を集め、新しいコンセプトの下で業界の中核会社となることを目指している。上場したことでようやくスタートラインに立つことができた」

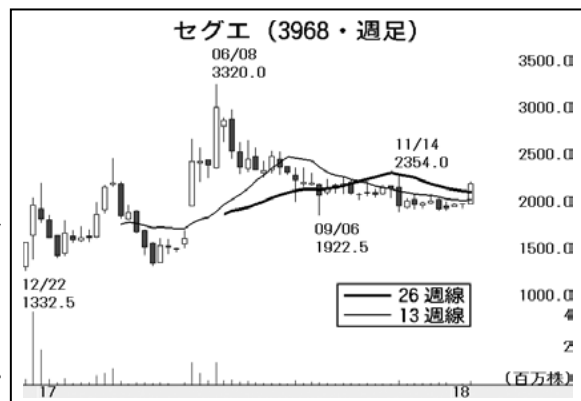
「上場により信用力が向上し、営業面でプラス効果を感じている。この2」

「第4次産業革命と言われているように、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、RPA(ロボティック・プロセス

「事業環境や御社の強みについてお聞かせください。」

「第4次産業革命と言われているように、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、RPA(ロボティック・プロセス

「上場により信用力が向上し、営業面でプラス効果を感じている。この2」



「オートメーション」などの新技術が台頭している時期。米フスベガスで開催されたCES2018を、実際に現地に行つてこの目で見てきたが、IoT家電が多く出展されるなど大きな変化が実感される。さまざまな電子デバイスとのつながりが生まれるようになり、新たなセキュリティ対策のニーズが高まるものと考えている」

「現在は注力している取り組みを教えてください。」

「『ひとつは自社開発製品のインターネット分離ソリューション』『SCVX』の機能拡充と販売。SCVXは侵入を防ぐ従来のセキュリティから、侵入されてもネットワークを分離することで自身を守ることができるという。これまではない発想のセキュリティ製品。ファイルの無害化機能など、世の中のニーズに応えられる開発を強化していく方針。SCVXは、グループ全体の売り上げではまだ小規模だが、利益率が高い。前期に地方自治体向けに多くの導入実績があり、今後は金融機関、医療機関をはじめとする民間企業や教育委員会などの文教市場向けの展開を進める」

「もうひとつは、AIを実装したセキュリティソフトなど、海外の最先端のソフトウェアおよびサービスの販売に力を入れていく。AIを実装したセキュ

「東証1部市場への早期の昇格、そして昇格後の株主還元を目指したい。また、業績は公表数値を確実に超えることを強く意識している。前期の第3四半期までは、売り上げや各段階利益において前年度の業績を上回ることでできている。これを継続していくことで、市場での信用を積み重ねていきたい」



「上場により信用力が向上し、営業面でプラス効果を感じている。この2」

企業名	セグエグループ
事業概要	ITセキュリティサービス ITシステム構築、運用、保守 ネットワーク構築、運用 IoTデバイス、販売、サービス
上場日	2016/12/21
初値	1375円 (株式分割調整後値段)